

第4回下川町農業振興審議会 審議概要

日 時 令和5年2月14日(火)13時25分～15時00分

場 所 役場庁舎2階会議室

出席者:吉田会長、丸山副会長、品地委員、水間委員 計4名

農林課:古屋課長、倉澤主査、葛西主事、高橋主事補 計4名

1 開会

2 会長挨拶

3 議案

(1) 農業振興条例の改正方針について

倉澤:資料に基づき説明。

水間:技能実習生についてはコロナや円安で稼げないため人が来ない。正直、実習生は技術を学ぶというより、出稼ぎという意識がある。派遣企業を通したら時給1,600円もして人手は足りないが、ためらってしまう。岐阜の事例の紹介もあったが、何か受け入れやすい補助がないと来ない。飛行機代なども補助できれば。宿舎は現在3人いるが、もし来てもあと2人。

吉田:円安もあり魅力がない。正直、実習生もどれだけ稼げるかってことだと思う。

実習生来ないところは作付けを減らしている。単純に賃金上げるとかは難しいと思うので何か実習生の身入りを促進するような補助があれば。

品地:研修旅費について、チャレンジ業とセットにすると使いにくいのではないか。また、国外研修の実績はあるのか。

倉澤:コロナもあり最近は無。昔は酪農で行った人もいたよう。

品地:酪農はまだわかるが、耕種で海外にいても何を見に来るところもあるので、研修は国内にして、限度額を200万円から30万円くらい下げの方がいいのでは。

品地:認証剤の補助は今まで新築しか対象にならなかったのか。

吉田:農業振興部門になっているが、林業の方からすれば農家もお客の中のひとつなので、林業部門で対象を広くしてやったほうがいいのでは。

倉澤:新築のハードルが高い。

品地：林業の方で対象を広くして、建築業者も対象になってしまうとまずい。

古屋：面積要件など設定するなど必要。予算規模も大きくなる。

丸山：これはもともと農家から要望があったのか、町から出したのか。

倉澤：農家から要望があった。

丸山：新築じゃなく、壊れたものを立て直すとか。一立方あたり 10 万円くらいという材料費くらいにはなるのでそれだったら使ってみようかという人はいるかもしれない。

水間：私もこの審議会委員になって初めてこういう補助があったということが分かった。

おそらくこういった補助があることを知らない人が多いと思う。

倉澤：補助金の一覧については改正の度に農家さんに送っている。難しく書いても読んでももらえないと思っているので簡略化して書いている。

吉田：今年何かやりたいっていう人しかしっかり読まない。

品地：改正のあるときに説明会などあってもいいのでは。

倉澤：パブリックコメントはあるが。

吉田：今回の条例の有効期限は

倉澤：R6 から 3 年

吉田：3 年という現状の影響を受けて進んでいくと思うので、例えば施設園芸から大畑の方にシフトするなど大きな柱があってそれに向かって補助の内容を決めていければいいのでは。

倉澤：経営所得の畑地化の関係もあり、取り入れていきたいが、どのようにしたらいいのかが難しい。

品地：今の下川の小麦は水田活用交付金がなくなるとトントンくらいになると思う。そこに補助金を出すととなると莫大の金額になるので町では対応できない。

水間：正直、水活なくなると赤字になる。大きい機械を持っていないため委託になるので。

吉田：ハードからソフトに重点をとると勉強会の補助金などもあれば。

水間：新規就農者向けのオンライン研修会があったが勉強になった。

品地：正直、今は守りに入る時期かと思う。

丸山：酪農関係で、ヘルパー補助を協力隊の制度を活用してということは 3 年間の任用の後は今まで通りの補助になるということか。

倉澤：名寄市で協力隊を活用している。新規就農や、別の道に行くなど選択肢はいくつかある。

丸山：農家によって機械のメーカーややり方が違うので、ヘルパーも技術が高い。これか

ら高齢化が進み使う農家が増えてくる可能性があるので、農協としてはしっかり現状の補助は残してもらいたい。

吉田：協力隊も人生を考えてきてもらうことになるので、3年歳をとっただけということになってはいけないと思う。予算の関係もあるかと思うが、ヘルパーさんの処遇をしっかりと、長く続けてもらうことが大事だと思う。

丸山：労働力の確保という面では、農協でアプリをいれていて、美深で何件か使っていて評判がいいという話も聞いている。全国でコロナの関係もあり去年は3500人しかいなかったがその前は約8万人の利用実績がある。受け入れ先と来る人とお互い評価できる。例えば名寄の大学生など夏アルバイトで来る人もいるかも。

吉田：事例があるのであれば、もっと周知してほしい。JAコネクとも積極的に使われていないと思う。

4 閉会